

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。
授業計画 Syllabus	①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、「自己紹介」、「自分の得意分野のプレゼン」、「私の宝物」、「私のおススメの一冊」、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦① ⑥自己紹介に挑戦② ⑦自分の得意分野をプレゼンする① ⑧自分の得意分野をプレゼンする② ⑨敬語の使い方 ⑩私の宝物 ⑪私のおススメの一冊 ⑫電話での対応と接遇 ⑬10年後の私 ⑭就職の面接に備える ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、滑舌、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。
評価方法 Evaluation	授業中に声を出させて評価し、次なる目標を設定します。人前で話す練習をし、その都度評価します。出席とプレゼン能力、スピーチの内容を評価します。出席重視。私語は退席。比率は出席60%、パフォーマンス20%、発表20%です。
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、「自己紹介」、「自分の得意分野のプレゼン」、「私の宝物」、「私のおススメの一冊」、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦① ⑥自己紹介に挑戦② ⑦自分の得意分野をプレゼンする① ⑧自分の得意分野をプレゼンする② ⑨敬語の使い方 ⑩私の宝物 ⑪私のおススメの一冊 ⑫電話での対応と接遇 ⑬10年後の私 ⑭就職の面接に備える ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、滑舌、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。
評価方法 Evaluation	授業中に声を出させて評価し、次なる目標を設定します。人前で話す練習をし、その都度評価します。出席とプレゼン能力、スピーチの内容を評価します。出席重視。私語は退席。比率は出席60%、パフォーマンス20%、発表20%です。
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、「自己紹介」、「自分の得意分野のプレゼン」、「私の宝物」、「私のおススメの一冊」、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦① ⑥自己紹介に挑戦② ⑦自分の得意分野をプレゼンする① ⑧自分の得意分野をプレゼンする② ⑨敬語の使い方 ⑩私の宝物 ⑪私のおススメの一冊 ⑫電話での対応と接遇 ⑬10年後の私 ⑭就職の面接に備える ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、滑舌、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。
評価方法 Evaluation	授業中に声を出させて評価し、次なる目標を設定します。人前で話す練習をし、その都度評価します。出席とプレゼン能力、スピーチの内容を評価します。出席重視。私語は退席。比率は出席60%、パフォーマンス20%、発表20%です。
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「人間は皆同じだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じると、人は動揺しその対立を避けようとし、その場合、意見の対立は異常事態として捉えられます。</p> <p>「人間は皆異なるものだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じて、それは当然のことであり、その違いをどのように克服していくかに力が注がれます。</p> <p>ディベートは、対立する二極の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者が判断するスタイルのコミュニケーションです。</p> <p>ディベート演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけて、説得力のアップを図ります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①ディベートの全体像 ディベートの必要性とデメリット、ディベートのルール</p> <p>②ディベートの実際 ディベートの流れを筆記しポイントを把握する</p> <p>③立論・尋問・反駁 論理構築の手法を学ぶ、論題に取り組む</p> <p>④肯定側立論演習 立論原稿を作成しプレゼンテーション演習を実施</p> <p>⑤論理の構造 論理の演繹法・帰納法的展開</p> <p>⑥民主主義とディベートの関連について考える レスター・サローの資本主義と民主主義を読む</p> <p>⑦ディベート実践1 ディベート準備・グループワーク</p> <p>⑧ディベート実践2 ショートディベート演習（その1）</p> <p>⑨ディベート実践3 ショートディベート演習（その2）</p> <p>⑩ディベート1 日本人のコミュニケーションの特徴、なぜ議論はかみあわないのか</p> <p>⑪ディベート2 ディベート演習（その1）</p> <p>⑫ディベート3 ディベート演習（その2）</p> <p>⑬サッカーディベート1 論理力を鍛えるには・ディベート準備</p> <p>⑭サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1）</p> <p>⑮サッカーディベートⅢ サッカーディベート演習（その2）・まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習評価【40%】、レポート【30%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。

教科書 Textbook (s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>事実の真偽、主張の確からしさを検証するためには、説得力を競うことが欠かせません。それは日常生活においても同じです。対立する事態を客観的に捉え、それぞれの立場からオープンに議論することは、現実の問題点や課題を検証するためには有意義です。我々の生活になぜディベートが必要なのか、を究明していきます。演習を繰り返すことで、社会人としての必須の「わかりやすく自分の考えを述べ、相手の話を真剣に聞き取り、粘り強く議論できる」能力を養うことができます。習得したコミュニケーションスキルは、就職活動・ビジネス・思考・自己表現の根幹となります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①ディベート概説 立論・尋問・反駁のポイント ②立論の作成 問題点を明確に主張する ③プレゼンテーション（立論） 評価シートによるフィードバックを受ける ④ディベート実践1 審査の方法・ショートディベート準備 ⑤ディベート実践2 ショートディベート演習（その1） ⑥ディベート実践3 ショートディベート演習（その2） ⑦ディベート1 現代のわれわれが受け入れている行動哲学・思想は何か、を考える ⑧ディベート2 ディベート演習（その1） ⑨ディベート3 ディベート演習（その2） ⑩サッカーディベート1 感情的説得・功利的説得・論理的説得とは何か ⑪サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1） ⑫サッカーディベート3 サッカーディベート演習（その2） ⑬ロングディベート1 ロングディベート演習（その1） ⑭ロングディベート2 ロングディベート演習（その2）・まとめ ⑮ディベート審査 モデルディベートをジャッジする</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習評価【40%】、客観的判断力評価【30%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。

教科書 Textbook (s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。						
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%						
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。						
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト① 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章(3) 第9回：達成度確認テスト② 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト③ 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト① 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章(3) 第9回：達成度確認テスト② 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト③ 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔(2003) ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔（2003）ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	